

一般社団法人

Interactive Communication Experts 御中

2024年9月25日

I.C.E 公式サイト ウェブアクセシビリティ報告会

CONFIDENTIAL

【関係外秘】

本資料の内容の許可なき

転載・引用・公開はご遠慮ください

CONCENT

本日の流れ

-- イントロダクション (約5分)--

1. 本日の趣旨P03

2. 自己紹介P04

-- 第一部 (約30分)--

3. ウェブアクセシビリティ概要P05

4. コンセントの進め方P43

5. その他P47

-- 第二部 (約90分～)--

6. 報告会本編 ※別紙

7. 質疑応答

本日の趣旨

- I.C.E ビジネス委員会で今期ウェブアクセシビリティに取り組んでいる
- I.C.Eのサイトをサンプルに、ウェブアクセシビリティをやってみよう
- 現状サイトのウェブアクセシビリティチェックをしてみたので、
今日はそのチェック結果を共有する会

<https://i-c-e.jp/>



自己紹介



秋山 豊志

AKIYAMA Atsushi

エンジニア

アクセシビリティエンジニア

Design Engineering group

2005年よりWeb制作会社にて従事。主に企業サイトを中心としたWebサイトの構築、ガイドライン作成に携わる。CMSを利用した1万ページ規模のWebサイトのコンポーネント開発や、多地域/多言語の展開を考慮したhtml・css設計、ウェブアクセシビリティ (WCAG2.0レベルAA) への対応を得意とする。ウェブアクセシビリティ 基盤委員 WG2委員



堀口 真人

HORIGUCHI Masato

プロデューサー

アクセシビリティアドバイザー

Customer Success group

リーダー

大手就職情報系サービスサイトのリニューアル、大手電機メーカーのコーポレートサイトリニューアル、同企業のBtoB事業グローバルサイト展開プロジェクトなどの大規模リニューアルのプロジェクトマネジメント、アカウントディレクションに従事。

ウェブアクセシビリティ基盤委員会 WG1 委員

第一部

ウェブアクセシビリティの概要

ウェブアクセシビリティとは

- ウェブアクセシビリティとは「より多くのユーザーが、より多くの利用環境から、より多くの場面や状況で、Webコンテンツを使えるようにすること」※1です。
- 障害者や高齢者に限らず、すべてのユーザーが対象です。また、様々な利用状況下でも、ウェブアクセシビリティの品質が高いほど、利用体験の質が向上します。
- ウェブアクセシビリティは国際的なガイドライン、国内での規格などで品質基準が定められており、多くの企業がこれに則りウェブサイトの実装・運営をしています。
- ウェブアクセシビリティはウェブサイトに実装して終わりではなく、運営・運用しながら維持・向上していく取り組みです。ウェブサイトへの実装と同時に、維持継続できる体制・仕組みづくりも同時に必要です。

※1 一部引用：A11y ウェブアクセシビリティとは？ https://weba11y.jp/basics/accessibility/accessibility_index/

ウェブアクセシビリティとは何か

- **アクセシビリティの定義 (ISO 9241-20)**

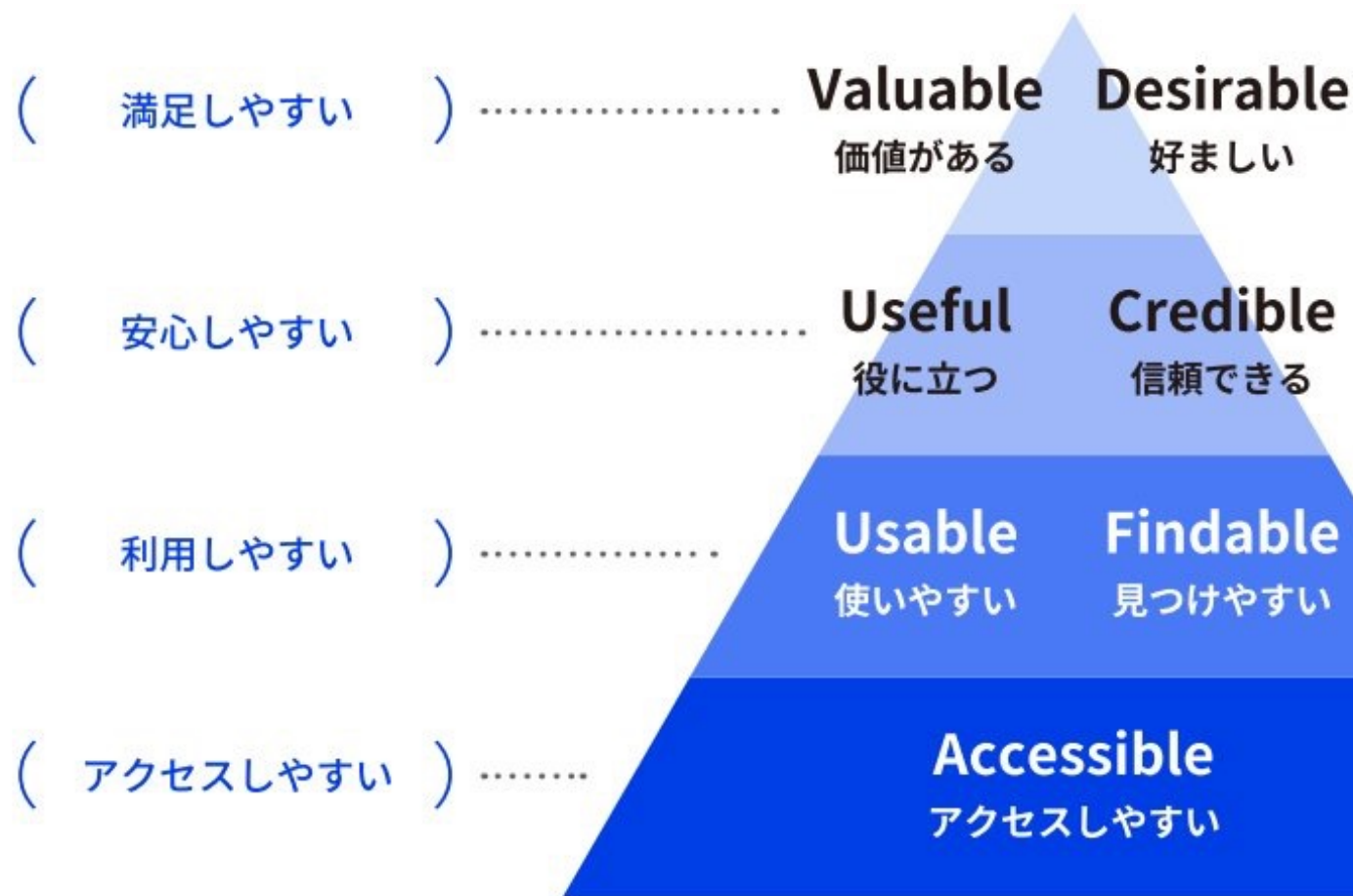
様々な能力を持つ幅広い層の人々に対する、製品、サービス、環境または施設の
ユーザビリティ。

- **ユーザビリティの定義 (ISO 9241-11)**

特定の目的を達成するために、特定の利用者が、特定の利用状況で、有効性、効率性、そして満足とともにある
製品を利用することができる度合い。

ウェブアクセシビリティとは

アクセシビリティは「情報にアクセスしやすい」というすべてのコミュニケーションの土台。
ユーザビリティや満足度などはその上に成り立つものであると言える。



※左記のアクセシビリティはリアルとデジタル（ウェブアクセシビリティを含む）両方含まれるが、本コンテンツは主にウェブ・アプリのアクセシビリティについて言及しています。

引用：bookslope blog - Evaluation method of UX “The User Experience Honeycomb”
<http://www.bookslope.jp/blog/2012/07/evaluationuxhoneycomb.html>
図版引用：デジタル庁 ウェブアクセシビリティ導入ガイドブック
<https://www.digital.go.jp/resources/introduction-to-web-accessibility-guidebook>

● 情報がしっかりと見える

ウェブアクセシビリティに配慮したウェブサイトは、
テキスト情報や画像が見やすく、読みやすくなる



● 音声等※に変換できる

スクリーンリーダーなどの支援技術を通して、
画像に含まれた情報をテキストで読み取ることができる



● キーボードだけで操作できる

ウェブアクセシビリティに配慮したウェブサイトは、
マウスが使えない状況でもキーボードで操作が可能になる



対象となるユーザー

例えば… 多様な利用状況。

- 日中の屋外でまぶしい状況
- 電車での動画字幕
 - ✓ 周囲が騒がしくて音が聞こえにくい状況
- 両手で操作をしにくい状況
 - ✓ 片手で操作する、音声で操作するなど
- デバイス画面を見ることができない状況
- 通信環境が悪い状況
 - ✓ データの軽量化も大事



(例) 周囲が騒がしくて音が聞こえにくい状況



(例) 両手で操作をしにくい状況

対象となるユーザー

例えば…海外の方や子ども向けコンテンツなど

- 海外の方・日本語がわからない人
 - ✓ やさしい日本語に変換できる
 - ✓ 翻訳機能で対応できる
- 子供向けのコンテンツ
 - ✓ 読み上げ(漢字を音声で説明できる)
 - ✓ ルビの対応ができる
 - ✓ マウス操作が難しいこどもでもボタンで操作ができる

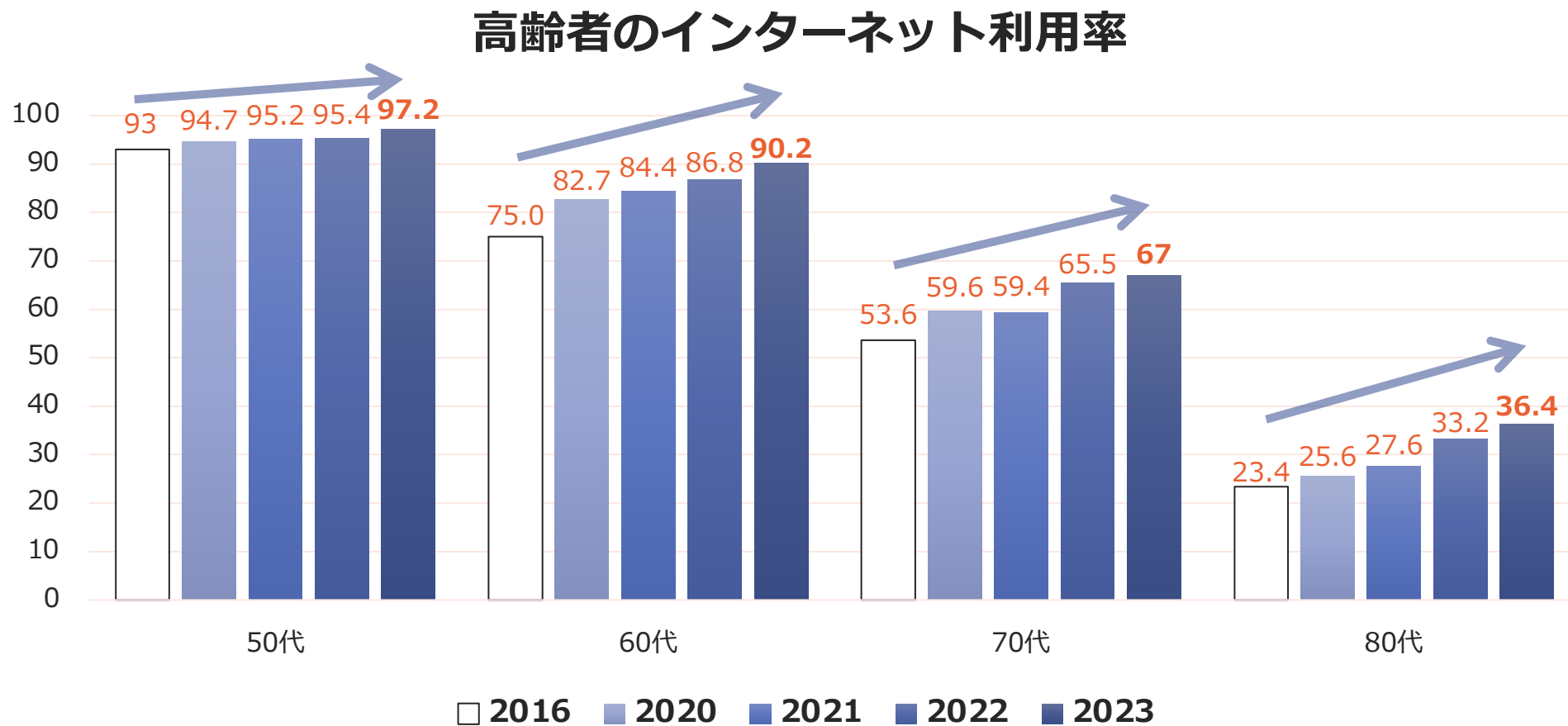


- ・在留外国人数 350万人(令和5年末)
- ・訪日外国人旅行者数 2500万人(令和5年)



ルビのWebサービスやブラウザの機能拡張もある

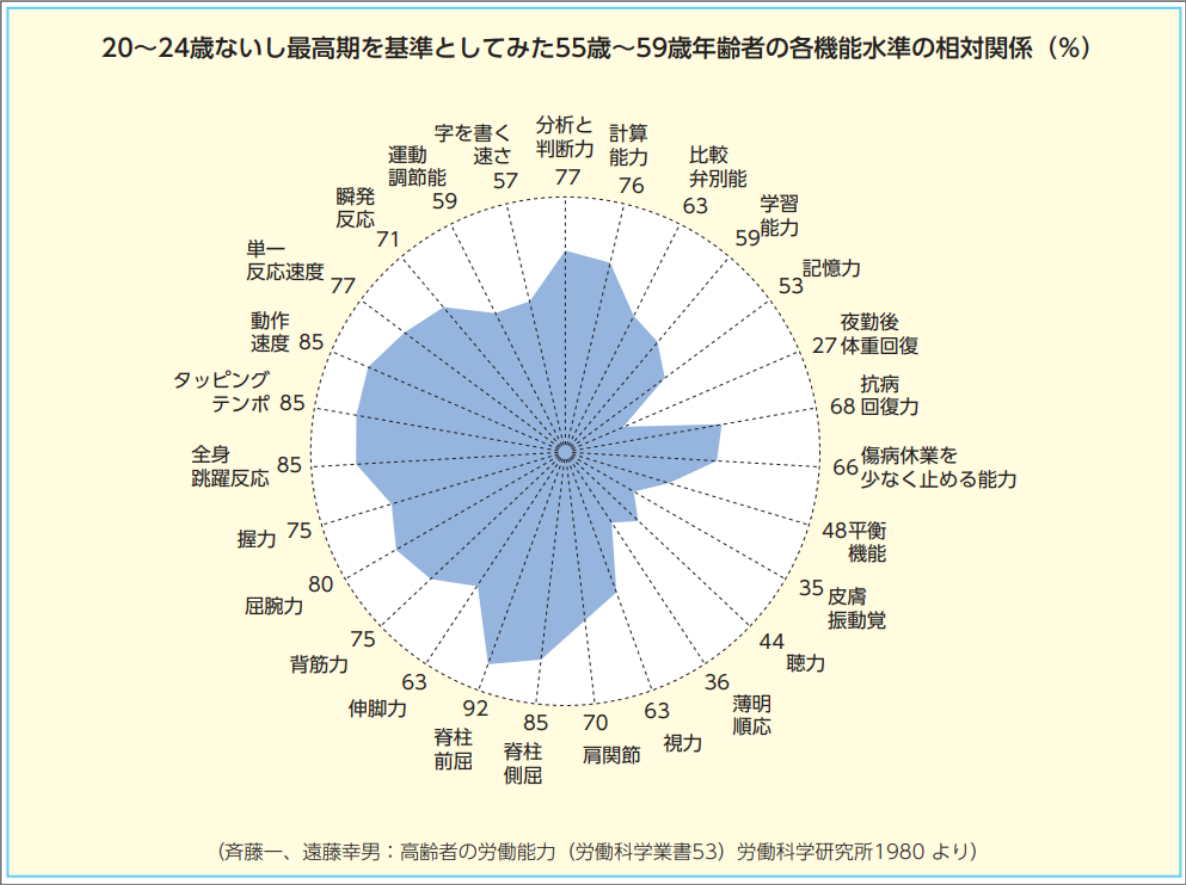
高齢者のインターネット利用率は年々増加している。



※ 出典:総務省 2023年5月「通信利用動向調査」<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/statistics/statistics05a.html>

対象となるユーザー | 高齢者

加齢によってさまざまな能力は衰える。

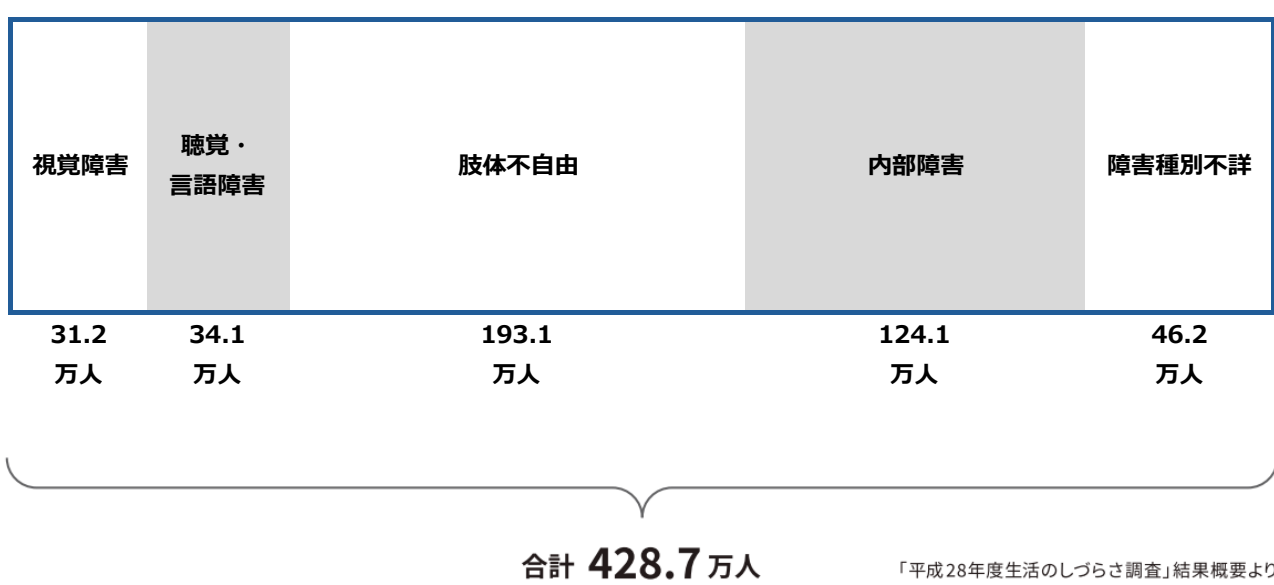


各能力	20～24歳	55～59歳
視力	100%	63%
聴力	100%	44%
記憶力	100%	53%
学習能力	100%	59%
瞬発速度	100%	71%
動作速度	100%	85%
分析・判断力	100%	77%
計算能力	100%	76%

出典：20～24歳ないし最高期を基準としてみた55～59歳年齢者の各機能水準の相対関係（％） | 東京労働局労働基準部「高年齢労働者の安全と健康」
<https://jsite.mhlw.go.jp/tokyo-roudoukyoku/var/rev0/0146/6394/konenrei.pdf>

対象となるユーザー | 障害者

障害者の多くはインターネットを利用している。
ウェブアクセシビリティの影響を受ける障害者は日本だけで428万人以上。



	インターネットを利用している
視覚障害者	91.7%
聴覚障害者	93.4%
肢体不自由者	82.7%
障害者全体	53.0%

引用：デジタル庁 ウェブアクセシビリティ導入ガイドブック P9
https://www.digital.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/08ed88e1-d622-43cb-900b-84957ab87826/53f76eaa/20240329_introduction_to_weba11y.pdf

出典：総務省 「障がいのある方々のインターネット等の利用に関する調査研究[結果概要]」（平成24年1月～3月実施）
http://barrierfree.nict.go.jp/relate/statistics/hc_internet.html

対象となるユーザー

総務省サイト内の障害者のウェブページ利用方法の紹介ビデオ。

全盲の視覚障害者、弱視の視覚障害者、肢体不自由者それぞれのウェブページの利用方法を掲載。

The screenshot shows the MIC website with a blue header. The main content area is titled '障害者のウェブページ利用方法の紹介ビデオ' (Introduction Video for Web Page Usage for Persons with Disabilities). It includes a summary of the video's purpose, a list of updates, and a sidebar with links to related information. The sidebar links include: 情報バリアフリー環境の整備 (Improvement of Information Barrier-free Environment), 情報アクセシビリティの確保 (Ensuring Information Accessibility), 視覚障害者向け放送の普及促進 (Promotion of Broadcasts for the Visually Impaired), アクセシビリティ対応電子書籍の普及促進 (Promotion of Accessibility-compatible E-books), 研究開発等への支援 (Support for Research and Development, etc.), 高齢者・障害者のICT利活用支援 (ICT Utilization Support for the Elderly and Persons with Disabilities), 過去の研究会報告書一覧 (List of Past Research Meeting Reports), and 電子政府関連文書におけるアクセシビリティ関連部分の抜粋 (Excerpts of Accessibility-related Parts in Electronic Government-related Documents).



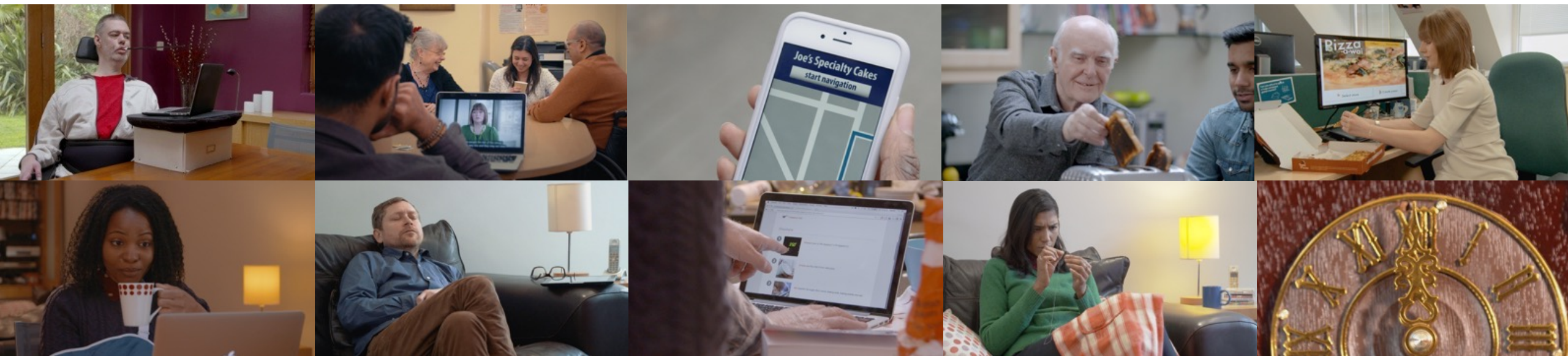
参考：総務省障害者のウェブページ利用方法の紹介ビデオ https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/2005/051215_1_wmv.html

対象となるユーザー

Web Accessibility Perspectives: Explore the Impact and Benefits for Everyone

<https://www.w3.org/WAI/perspective-videos/>

- W3C (World Wide Web) のウェブアクセシビリティの組織 (WAI) が公開している動画
- 直訳「ウェブアクセシビリティの展望: すべての人にとってのインパクトとメリットを探る」
- 様々な状況・障害における影響とウェブアクセシビリティのメリットを示す10の事例
- 事例はそれぞれは1分程度

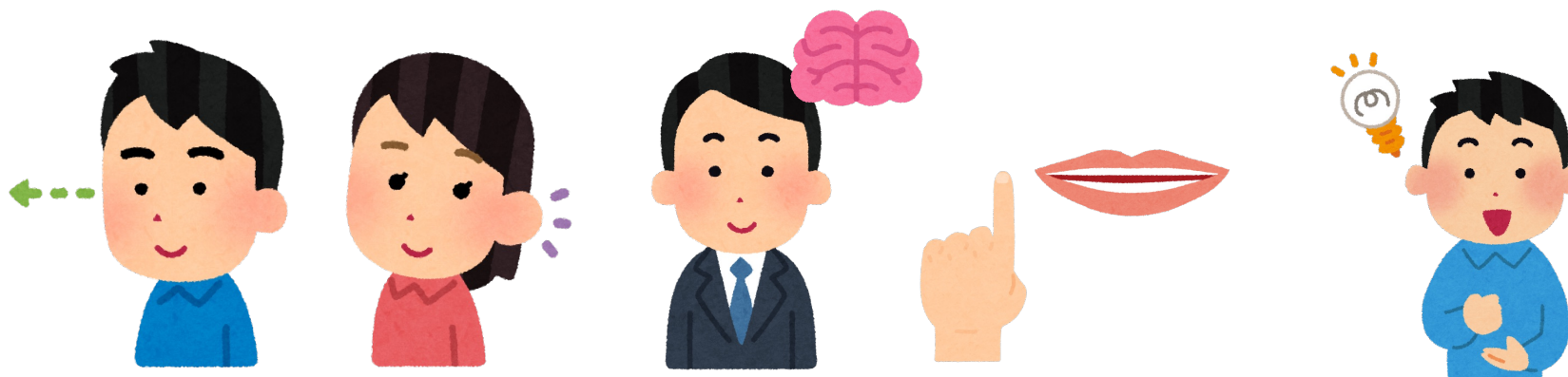


- **ヒューマンリーダビリティ(対人可読性)**
- **マシンリーダビリティ(機械可読性)**

● ヒューマンリーダビリティ(対人可読性)

人が情報にアクセスできる。

様々な感覚器官で認識し、理解ができる状態。



● マシンリーダビリティ(機械可読性)

テキストや文書構造を機械での可読を可能にし、
状況や環境に適切な情報に変更して伝達できること



ガイドライン・規格

ウェブアクセシビリティのガイドライン

ウェブアクセシビリティはW3Cが定めたガイドラインがあり Web Contents Accessibility Guideline (WCAG)という。

W3C®

Web Accessibility Initiative

WAI

Strategies, standards, resources to make the Web accessible to people with disabilities

Get Involved | About W3C WAI

Accessibility Fundamentals

Planning & Policies

Design & Develop

Test & Evaluate

Teach & Advocate

Standards/Guidelines

Home / Standards/Guidelines / Web Content – WCAG 2

Standards/ Guidelines

Web Content – WCAG 2

How to Meet WCAG 2 (Quick Reference)

At a Glance

The Documents

Applying to Non-Web ICT

New in 2.2 Draft

New in 2.1

Translations

Commenting

Conformance Logos

FAQ

WCAG 2 Overview

Summary

This page introduces the Web Content Accessibility Guidelines (WCAG) international standard, including WCAG 2.0, WCAG 2.1, and WCAG 2.2. WCAG documents explain how to make web content more accessible to people with disabilities.

A different page [introduces WCAG 3](#).

WCAG is not an introduction to accessibility. For introductions, see [Accessibility Fundamentals Overview](#).

Quick links to resources:

- [How to Meet WCAG 2 \(Quick Reference\)](#)
- [WCAG 2.2 Draft](#) **What's New in WCAG 2.2 Draft** with status and timeline
- [WCAG 2.1 Standard](#)
- [WCAG 2.0 Standard](#)

Page Contents

- [Introduction](#)
- [WCAG 2.0, 2.1, 2.2](#)
- [Who WCAG is for](#)

※WCAGの読み方：
特に定まっていますが、「ダブルシーエージー」
「ウィケーグ」「ウィーキャグ」などと発音することが多いです。

ウェブアクセシビリティのガイドライン

WCAGは原則/ガイドライン/達成基準項目からなる。
達成基準には3段階のレベルが設定されている。

● WCAGの構成
※下図はWCAG2.2の達成基準項目数

原則	ガイドライン	達成基準		
		A	AA	AAA
1. 知覚可能	1.1 代替テキスト	1		
	1.2 時間の経過に伴って変化するメディア	3	2	4
	1.3 適応可能	3	2	1
	1.4 識別可能	2	7	4
2. 操作可能	2.1 キーボード操作可能	3		1
	2.2 十分な時間	2		4
	2.3 発作の防止	1		2
	2.4 ナビゲーション可能	4	4	5
	2.5 入力モダリティ	4	2	2
3. 理解可能	3.1 読みやすさ	1	1	4
	3.2 予測可能	3	2	1
	3.3 入力支援	3	3	3
4. 堅牢性	4.1 互換性	1	1	

● 適合(等級)レベル

適合(等級)レベル	概要	WCAG 2.0 (JIS)	WCAG 2.1	WCAG 2.2
A	アクセシビリティ確保の最低限のレベル	25	30	31
AA	アクセシビリティ確保の標準レベル (国内外の公的機関の品質基準や法規制に紐づき参照されるレベル)	13	20	24
AAA	達成可能な項目のみ実施 (基準を全て満たすことは不可能であるため、サイト全体の一般的な方針としてレベル AAA 準拠を要求することは推奨)	23	28	31
計		61	78	86

参考:ガイドライン | 基準項目の一覧

このような達成基準の項目がガイドラインにて複数定められている

1 知覚可能

1.1 テキストによる代替

1.1.1 非テキストコンテンツ

A

1.2 時間依存メディア

1.2.1 音声のみ及び映像のみ (収録済)

A

1.2.2 キャプション (収録済)

A

1.2.3 音声解説、又はメディアに対する代替 (収録済)

A

1.2.4 キャプション (ライブ)

AA

1.2.5 音声解説 (収録済)

AA

1.3 適応可能

1.3.1 情報及び関係性

A

1.3.2 意味のあるシーケンス

A

1.3.3 感覚的な特徴

A

1.3.4 表示の向き¹⁾

AA

1.3.5 入力目的の特定¹⁾

AA

1.4 判別可能

1.4.1 色の使用

A

1.4.2 音声の制御

非干渉 A

1.4.3 コントラスト (最低限)

AA

1.4.4 テキストのサイズ変更

AA

1.4.5 文字画像

AA

1.4.10 リフロー¹⁾

AA

1.4.11 非テキストのコントラスト¹⁾

AA

1.4.12 テキストの間隔¹⁾

AA

1.4.13 ホバー又はフォーカスで表示されるコンテンツ¹⁾

AA

2 操作可能

2.1 キーボード操作可能

2.1.1 キーボード

A

2.1.2 キーボードトラップなし

非干渉 A

2.1.4 文字キーのショートカット¹⁾

A

2.2 十分な時間

2.2.1 タイミング調整可能

A

2.2.2 一時停止、停止、非表示

非干渉 A

2.3 発作と身体的反応

2.3.1 3回の閃光、又は閾値以下

非干渉 A

2.4 ナビゲーション可能

2.4.1 ブロックスキップ

A

2.4.2 ページタイトル

A

2.4.3 フォーカス順序

A

2.4.4 リンクの目的 (コンテキスト内)

A

2.4.5 複数の手段

AA

2.4.6 見出し及びラベル

AA

2.4.7 フォーカスの可視化

AA

2.4.11 隠されないフォーカス (最低限)²⁾

AA

2.5 入力モダリティ¹⁾

2.5.1 ポインタのジェスチャ¹⁾

A

2.5.2 ポインタのキャンセル¹⁾

A

2.5.3 ラベルを含む名前 (name)¹⁾

A

2.5.4 動きによる起動¹⁾

A

2.5.7 ドラッグ動作²⁾

AA

2.5.8 ターゲットのサイズ (最低限)²⁾

AA

3 理解可能

3.1 読み取り可能

3.1.1 ページの言語

A

3.1.2 一部分の言語

AA

3.2 予測可能

3.2.1 フォーカス時

A

3.2.2 入力時

A

3.2.3 一貫したナビゲーション

AA

3.2.4 一貫した識別性

AA

3.2.6 一貫したヘルプ²⁾

A

3.3 入力支援

3.3.1 エラーの特定

A

3.3.2 ラベル又は説明

A

3.3.3 エラー修正の提案

AA

3.3.4 誤り防止 (法的、金融、データ)

AA

3.3.7 冗長な入力項目²⁾

A

3.3.8 アクセシブルな認証 (最低限)²⁾

AA

4 堅牢 (robust)

4.1 互換性

4.1.1 構文解析 (廃止・削除)

4.1.2 名前 (name)・役割 (role)・値 (value)

A

4.1.3 ステータスメッセージ¹⁾

AA

WCAGのバージョン

WCAGのバージョンは一定期間でアップデートされる。
現在は2.2が勧告中であり、3.0の草案が検討されている状況。

時期	バージョン	達成基準 項目総数※
1995年勧告	WCAG 1.0	65
2008年12月勧告	WCAG 2.0	61
2018年8月勧告	WCAG 2.1	78
2023年10月勧告	WCAG 2.2	81
作業草案	WCAG 3.0	-

WCAGはグローバル規模のガイドライン

WCAGは多くの国で法規制の参照元になっている。

Country	Name	Date enacted	Type (Policy, law, legislation, etc.)	Scope	Web Only	WCAG Version Based On
China	Law on the Protection of Persons with Disabilities 1990, as amended	2008	Accessibility law	Public sector, Private sector	no	None
United Kingdom	Equality Act 2010	2010	Non-discrimination law	Public sector, Private sector	no	WCAG 2.0
Germany	Federal Ordinance on Barrier-Free Information Technology	2011	Accessibility policy	Government	yes	WCAG 2.0 derivative
France	Order of 29 April 2015 on the general accessibility framework for public administrations	2015	Accessibility law	Public sector	yes	WCAG 2.0 derivative

諸外国の法律によるウェブアクセシビリティ確保の義務化。

企業ウェブサイト求められるウェブアクセシビリティの確保



- アメリカの「ADA」
明文化されていないが、近年の判例等では企業にレベルAA準拠を要求することが多い



- カナダ(オンタリオ州)の「AODA」
従業員50名以上の企業にはレベルA準拠を要求



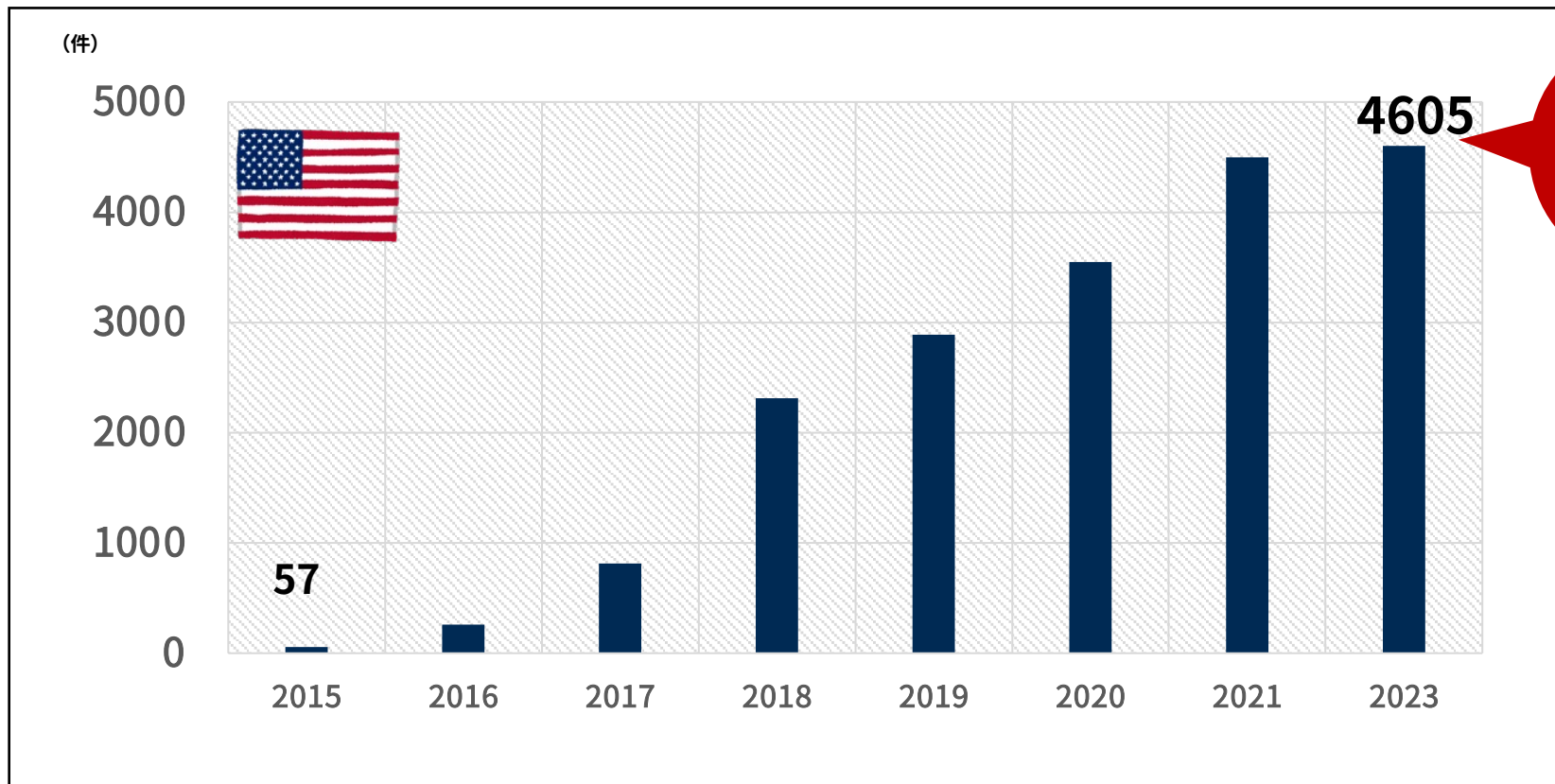
- 韓国の「障害者差別禁止法」
技術基準は「KWCAAG 2.1」(「WCAG 2.0」ベース)



- EUの「欧州アクセシビリティ法」
具体的な技術要件の明示はないが、WCAG に基づいてアクセシビリティ対応が必要

アメリカでの起訴件数の増加

アメリカでは企業サイトがウェブアクセシビリティの基準を満たしていないという理由で提訴されており、2015年に提起された訴訟件数は57件だったが、2023年には4600件に達している。



年々
増加して
いる

参考：下記2点を参考に筆者にて作成

1. UsableNet UsableNet. 2021 MID YEAR REPORT ADA DIGITAL ACCESSIBILITY LAWSUITS.

[https://f.hubspotusercontent30.net/hubfs/3280432/Remediated%20-%202021_MidYear_UsableNet_WebAccessibilityLawsuit_Report_FINAL_06292021%20\(5\).pdf](https://f.hubspotusercontent30.net/hubfs/3280432/Remediated%20-%202021_MidYear_UsableNet_WebAccessibilityLawsuit_Report_FINAL_06292021%20(5).pdf)

2. アゴラ「米国でウェブアクセシビリティ訴訟は増加の一途」 <http://aгора-web.jp/archives/2028130-2.html>

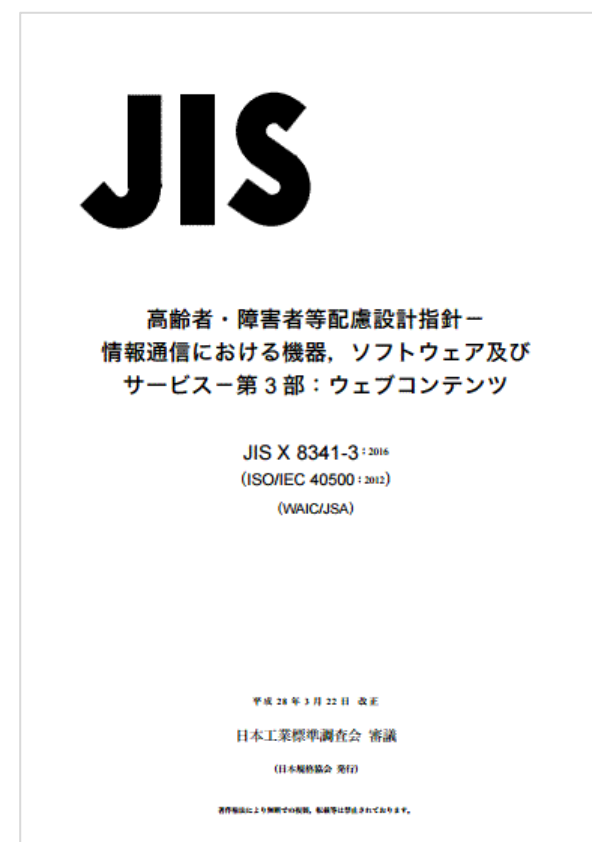
国内のウェブアクセシビリティの規格

国内のウェブアクセシビリティのガイドラインに相当するのは
JIS X 8341-3(日本産業規格)。

高齢者・障害者等配慮設計指針

- 情報通信における機器,
ソフトウェア及びサービス
- 第3部：ウェブ コンテンツ

工業標準化法が一部改正され、“日本工業規格（JIS）”が
“日本産業規格（JIS）”に変更
(令和元年 7 月 1 日施行)



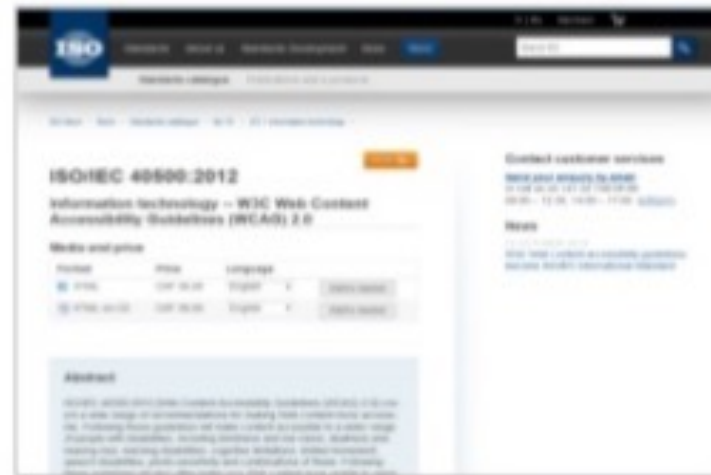
JIS ≡ WCAG

W3Cが定める「WCAG2.0/2.1」が諸外国で基準採用。「WCAG2.0」はISOの規格として承認。
(2012年)国内のウェブアクセシビリティのJIS規格はISOと一致内容。(2016年)

W 3 C WCAG2.0



ISO/IEC 40500:2012

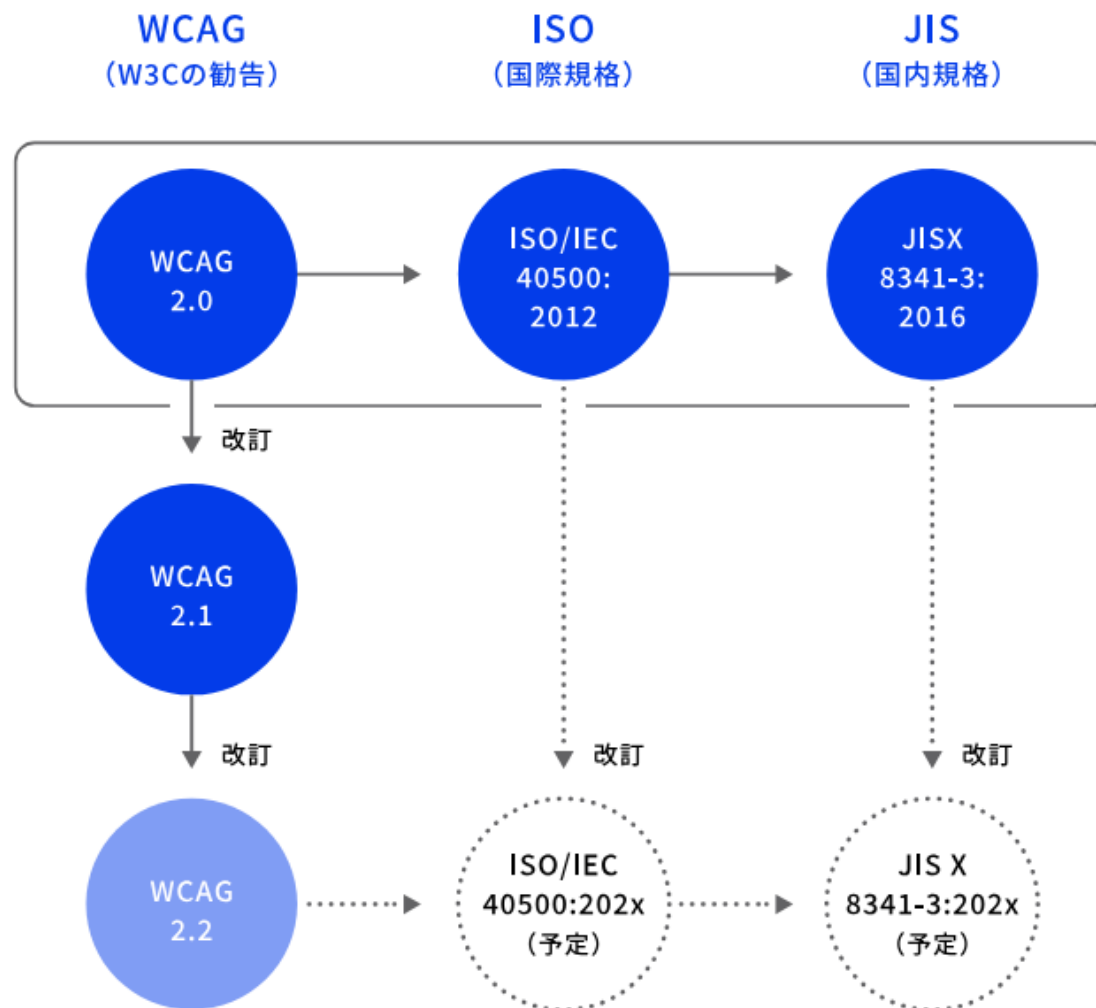


JIS X 8341-3 :2016



WCAGと国内のJIS規格との関連

JISはWCAG2.0との一致規格のためWCAG2.1や2.2の達成基準は含まれない。



※ デジタル庁ウェブアクセシビリティ導入ガイドブック 2024年3月29日発行版「3.ウェブアクセシビリティで達成すべきこと」（資料内P.22より）より抜粋、画像引用

https://www.digital.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/08ed88e1-d622-43cb-900b-84957ab87826/60b7f8b0/20231110_introduction_to_weba11y.pdf

公表の考え方、(バージョンによる)達成基準項目の数などに違いがある。

	WCAG	JIS X 8341-3
位置づけ	- W3Cが策定している国際的な基準になるガイドライン - WCAG2.0と同様の内容がISOで規格化されている	- 日本産業規格として定められている日本国内の規格 - ISOで規格化されたWCAG2.0がJIS X 8341-3:2016で取り込まれている
達成基準(項目)	4つの原則(WCAG2.0、2.1、2.2) 13のガイドライン(WCAG2.1、2.2。WCAG2.0は12のガイドライン)	4つの原則、12のガイドライン(WCAG2.0と同様)
適合レベル(等級レベル)	A、AA、AAAの3つ	A、AA、AAAの3つ(JIS X 8341-3:2016の場合)
達成度合いの公表	- 達成度合いの公表を義務付けてはいない - 達成度合いを公表するには、自己評価などを行う必要がある	- 達成度合いを公表することができる - 達成度合いの示す方法を含む推奨プロセスがWAIC※にて公開されている
その他	各国で基準として採用されている(現状では主にWCAG2.0、WCAG2.1)	公的機関では、AAを達成するように総務省が義務化している

2024年4月1日に施行された障害者差別解消法民間企業の合理的配慮の義務化も盛り込まれる。民間企業にも合理的配慮、環境の整備の文脈でウェブアクセシビリティの確保が求められている



政府広報オンライン:「ウェブアクセシビリティとは?」より抜粋

“合理的配慮を的確に行うため、環境の整備が努力義務となっており、ウェブサイトの 경우에는 JIS X 8341-3:2016 に準拠したウェブサイトを作り、ウェブアクセシビリティを確保することがこれに当たります。”

民間事業者の合理的配慮が義務化

令和6年(2024年)4月1日から、障害者差別解消法（障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律）の改正により、国や地方公共団体などに義務付けられている合理的配慮の提供が、民間の事業者も義務化されました。

障害のある人への合理的配慮とは、社会生活の中にあるバリア（障壁）を取り除くために何らかの対応を必要としている場合には、負担が重すぎない範囲で対応することです。例えば、日常生活であれば「駅員が車いすの乗客の手助けをする」「窓口で筆談、手話などを用いて意思疎通する」といったことです。また、その合理的配慮を的確に行うため、環境の整備が努力義務となっており、ウェブサイトの 경우에는 JIS X 8341-3:2016 に準拠したウェブサイトを作り、ウェブアクセシビリティを確保することがこれに当たります。

企業の社会的な責任として合理的配慮を行う事業者が増えることは、私たちがウェブサイトを情報インフラとして利用する上でとても大切なことです。

引用: 政府広報オンライン <https://www.gov-online.go.jp/useful/article/202310/2.html>

引用: 内閣府: 障害を理由とする差別の解消の推進 <https://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/sabekai.html>

アクセシビリティ改善とSEOには、共通する部分が多い。

SEO対策のため(1/3)

- a11y改善とSEOの方法には共通する部分が多い
- 例1:titleタグ
 - SEO:「<title> 要素に具体的でわかりやすいテキストを記述する」^{*1}
 - a11y:「ウェブページには、主題又は目的を説明したタイトルがある」べき^{*2}
- 例2:alt属性
 - SEO:「画像に alt 属性を指定」することで「ユーザーが目的のコンテンツを見つけやすくなる」^{*3}
 - a11y:「利用者に提示されるすべての非テキストコンテンツには、同等の目的を果たすテキストによる代替が提供されている」^{*4}
 - 非テキストコンテンツ: 画像など
 - テキストによる代替: alt属性など

*1: 最適なタイトルリンクを出しやすくするためのベストプラクティス, Google. *2: WCAG 達成基準 2.4.2 ページタイトル, W3C. *3: Google 画像検索 SEO ベストプラクティス, Google. *4: WCAG 達成基準 1.1.1 非テキストコンテンツ, W3C

ウェブアクセシビリティのプロセス (コンセント社の場合)

• 方針を決める

- 対象範囲、目標とするレベルと対応度



• 対象範囲での対応を進める

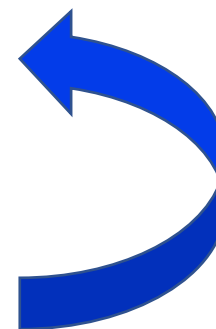


• 試験を実施する

- 特定のページのみ対応=ウェブページ単位
- ウェブサイト全体などで対応=ウェブページ一式単位



• 試験結果を公開する



次の範囲の改修

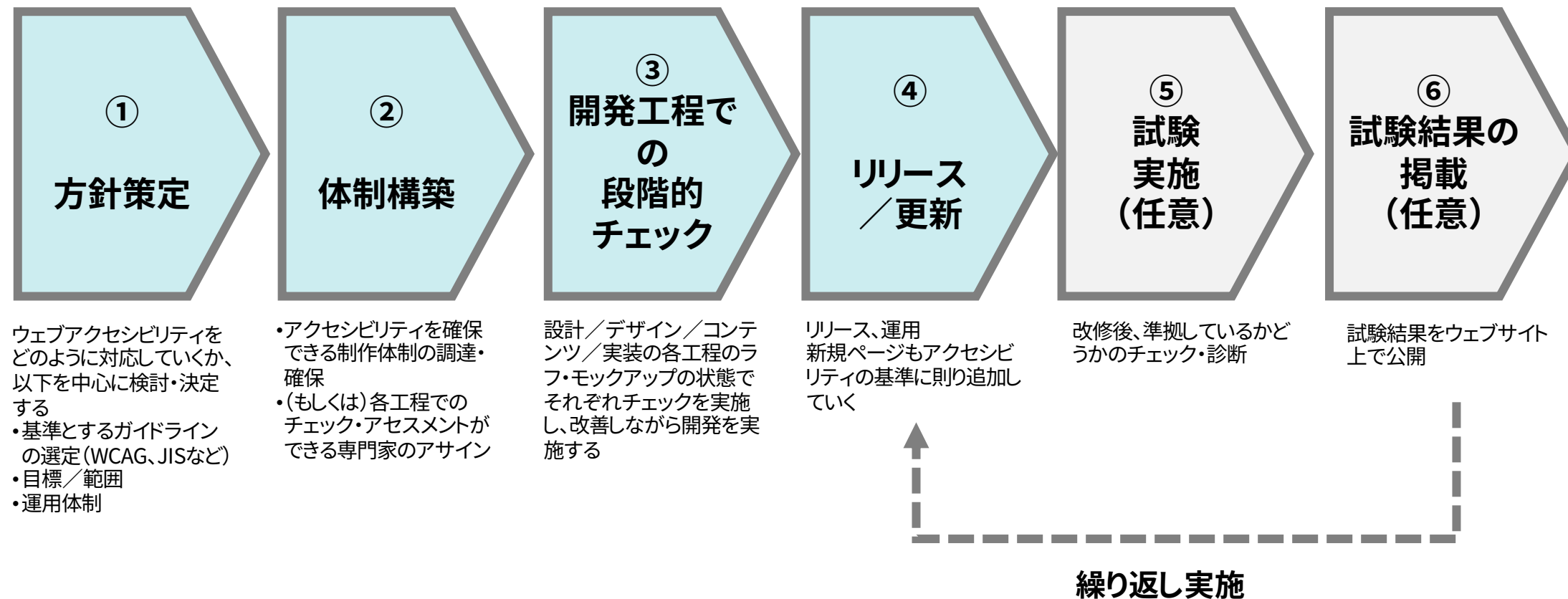
引用:ウェブアクセシビリティ基盤委員会「これでわかる!Webアクセシビリティって?JIS X 8341-3って?」https://www.slideshare.net/waic_jp/webjis-x-83413-130467660

コンセントでの一般的なプロセス例(新規・リニューアル)

ウェブサイトは常に更新されるため、一度実装しても終了とならず、品質を維持するための体制が求められる。

● 新規構築・リニューアルのプロセス（例）

JIS X 8341-3:2016に「一部準拠／準拠」
する場合は必要



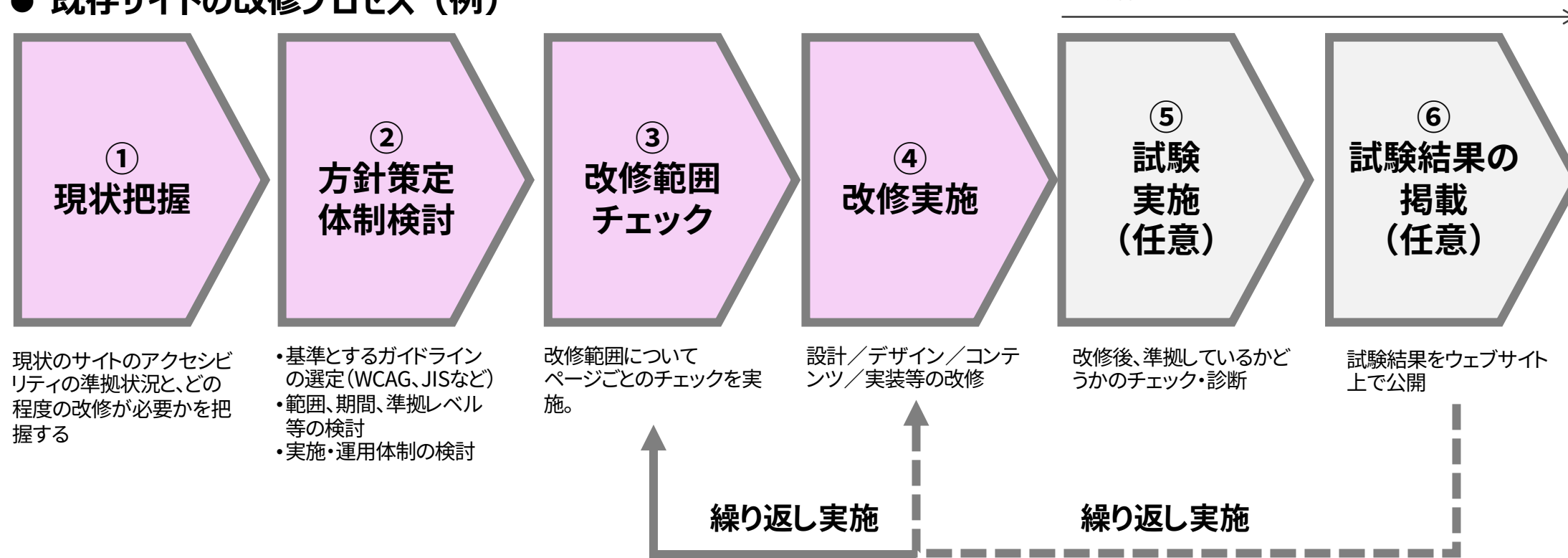
※上記プロセスはあくまでケースのひとつであり、上記以外のプロセスもあります。

コンセントでの一般的なプロセス例(既存)

現状サイトの状況を把握するところからスタートします。調査を元に改修にどの程度の期間とコストがかかるかの想定を行い、段階的な改修を計画し、時間をかけて対応していくことが一般的です。

● 既存サイトの改修プロセス（例）

JIS X 8341-3:2016に「一部準拠／準拠」
する場合は必要



ある程度ボリュームのあるウェブサイトを一度に改修するのは現実的ではなく、サイト全体の中で優先順位をつけ、段階的にチェック、改善のプロセスを繰り返し実施することが一般的です。

※上記プロセスはあくまでケースのひとつであり、上記以外のプロセスもあります。

- ウェブアクセシビリティに明るい(詳しい)メンバーは必要?
 - 必要(ツールだけでは賄えない)。
- 診断・試験・チェックは第三者審査機関に出すの?
 - 第三者機関はない。自己チェックで良い。
- ウェブアクセシビリティはデザインを損なうか
 - 誰向けのサイトか。制約ではなく品質基準として考える。
- オーバーレイツールってなんですか?
 - オーバーレイツールには気をつけよう。

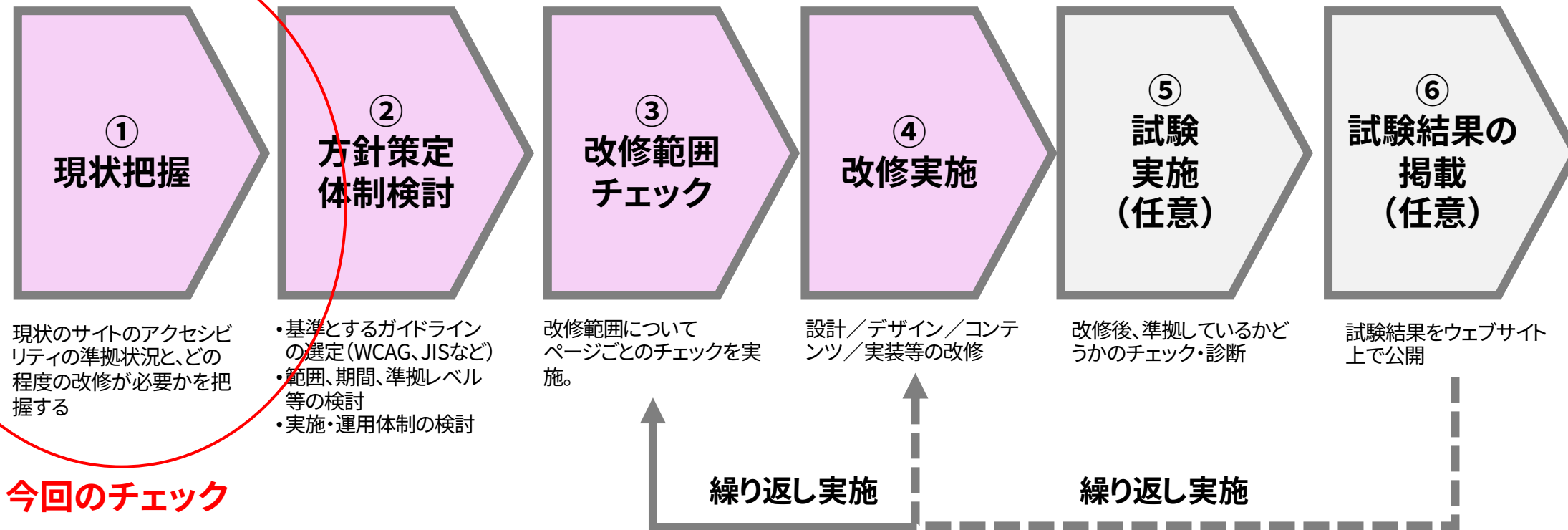
今回のチェック

コンセントでの一般的なプロセス例(既存)

現状サイトの状況を把握するところからスタートします。調査を元に改修にどの程度の期間とコストがかかるかの想定を行い、段階的な改修を計画し、時間をかけて対応していくことが一般的です。

● 既存サイトの改修プロセス (例)

JIS X 8341-3:2016に「一部準拠／準拠」
する場合は必要



今回のチェック

ある程度ボリュームのあるウェブサイトを一度に改修するのは現実的ではなく、サイト全体の中で優先順位をつけ、段階的にチェック、改善のプロセスを繰り返し実施することが一般的です。

※上記プロセスはあくまでケースのひとつであり、上記以外のプロセスもあります。

チェックとは

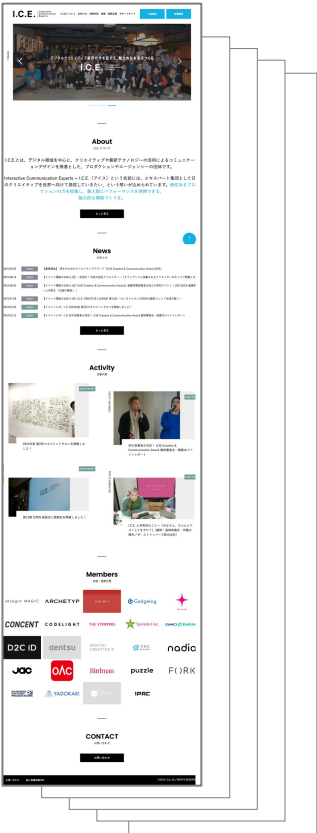
基本はページ単位でチェックを行う。今回はWCAG2.1AAの50項目をチェック。

WCAG 2.1 AAの達成基準50項目 (下記表は2.2 AA 55項目)

1 知覚可能	2 操作可能	3 理解可能
1.1 テキストによる代替 1.1.1 非テキストコンテンツ A 1.2 時間依存メディア 1.2.1 音声のみ及び映像のみ (収録済) A 1.2.2 キャプション (収録済) A 1.2.3 音声解説、又はメディアに対する代替 (収録済) A 1.2.4 キャプション (ライブ) AA 1.2.5 音声解説 (収録済) AA 1.3 適応可能 1.3.1 情報及び関係性 A 1.3.2 意味のあるシーケンス A 1.3.3 感覚的な特徴 A 1.3.4 表示の向き¹⁾ AA 1.3.5 入力目的の特定¹⁾ AA 1.4 判別可能 1.4.1 色の使用 A 1.4.2 音声の制御 非干渉 A 1.4.3 コントラスト (最低限) AA 1.4.4 テキストのサイズ変更 AA 1.4.5 文字画像 AA 1.4.10 リフロー¹⁾ AA 1.4.11 非テキストのコントラスト¹⁾ AA 1.4.12 テキストの間隔¹⁾ AA 1.4.13 ホバー又はフォーカスで表示されるコンテンツ¹⁾ AA	2.1 キーボード操作可能 2.1.1 キーボード A 2.1.2 キーボードトラップなし 非干渉 A 2.1.4 文字キーのショートカット¹⁾ A 2.2 十分な時間 2.2.1 タイミング調整可能 A 2.2.2 一時停止、停止、非表示 非干渉 A 2.3 発作と身体的反応 2.3.1 3回の閃光、又は閾値以下 非干渉 A 2.4 ナビゲーション可能 2.4.1 ブロックスキップ A 2.4.2 ページタイトル A 2.4.3 フォーカス順序 A 2.4.4 リンクの目的 (コンテキスト内) A 2.4.5 複数の手段 AA 2.4.6 見出し及びラベル AA 2.4.7 フォーカスの可視化 AA 2.4.11 隠されないフォーカス (最低限)²⁾ AA 2.5 入力モダリティ¹⁾ 2.5.1 ポインタのジェスチャ¹⁾ A 2.5.2 ポインタのキャンセル¹⁾ A 2.5.3 ラベルを含む名前 (name)¹⁾ A 2.5.4 動きによる起動¹⁾ A 2.5.7 ドラッグ動作²⁾ AA 2.5.8 ターゲットのサイズ (最低限)²⁾ AA	3.1 読み取り可能 3.1.1 ページの言語 A 3.1.2 一部の言語 AA 3.2 予測可能 3.2.1 フォーカス時 A 3.2.2 入力時 A 3.2.3 一貫したナビゲーション AA 3.2.4 一貫した識別性 AA 3.2.6 一貫したヘルプ²⁾ A 3.3 入力支援 3.3.1 エラーの特定 A 3.3.2 ラベル又は説明 A 3.3.3 エラー修正の提案 AA 3.3.4 誤り防止 (法的、金融、データ) AA 3.3.7 冗長な入力項目²⁾ A 3.3.8 アクセシブルな認証 (最低限)²⁾ AA 4 堅牢 (robust) 4.1 互換性 4.1.1 構文解析 (廃止・削除) 4.1.2 名前 (name)・役割 (role)・値 (value) A 4.1.3 ステータスメッセージ¹⁾ AA

【出典】 Web Content Accessibility Guidelines 2.2 (https://waic.jp/translations/WCAG22/) 【制作】 株式会社時代工房 (@jidaikobo) with もんぞ (@momdo) 【PDF調整】 中野 信 (@makojo) 2024年5月版

ウェブサイトの各ページ
(今回は20ページ程度)



引用:株式会社時代工房 / WCAG2.2 早見表 <https://www.jidaikobo.com/news/82.html>

調査業務概要 1/2

- ウェブアクセシビリティ現状把握業務概要：

- 対象サイト：<https://i-c-e.jp/>
- 評価前提：WCAG2.1 AA / JIS X 8341-3:2016 AA
- 調査対象ページ数：20ページ × 2デバイス（PC版、スマートフォン版）※費用変動要素
- 対象ページ・選定方法：別紙にて記載
- 調査方法：弊社アクセシビリティエンジニアによる目視によるチェック
- 納品物：評価チェック一覧表／診断レポート
 - 今後の方針の検討一部ご支援を含む（方針の内容やウェブサイト掲載内容の検討業務）
- 工期目安：調査実施 20営業日、レポートニング、10営業日（作業開始から実施報告まで約30営業日）
※ 弊社内稼働状況、アサインメント状況により開始日、工期は変動いたします。予めご了承ください。
- 稼働開始可能時期：7月中旬～8月初旬頃
- 備考：外部サービスとの連携が発生するページは対象外となります。
 - 例：Googleフォーム等

調査業務概要 2/2

● 調査範囲

- 本件対象サイト(対象ドメイン配下)では、ヘッダ・フッタ・サブナビ等、同一のデザインフォーマットでページを展開している想定。
- ニュース各記事などを除くサイトの総ページ数は約20ページ前後。
(ニュース各記事などを含めると 200ページ程度を想定)
- 通常コーポレートサイト等での診断時のページ数の目安は40ページ前後だが、本件サイトでは20ページ程度で課題点のほとんどが抽出できると想定。
- 試験において評価対象をランダム選択した際の可否判定の目安数。
 - ~25 で最低限。25~40 で標準。40~ で十分

● その他、調査備考

- 量産ページと想定されている部分については、メインコンテンツ部分(ヘッダ / フッタを除いた箇所)のみを評価対象とする想定。
 - おそらく量産ページ以外においても、ヘッダ / フッタはしっかりと共通パーツとしてデザインされている印象を受ける。
- SPサイトとPCサイトはレスポンスによるほぼ同様の情報構造を想定。一部ナビゲーションのみ変更されている想定。

調査対象ページの選定

- 各サイトのコンテンツ傾向を踏まえる上で、重視した方が良いと考えられるコンテンツ
 - ページデザインによる観点
 - トップページ
 - ナビゲーション等の共通パーツ、UI
 - 展開数が多いページの雛形となるページ（同一のコンテンツパターンにて展開数の多いページ）
 - 主要カテゴリのトップ
 - 利用者観点
 - お問い合わせフォーム（入力フォーム）
 - サイトオーナー観点
 - 各サイトの主軸コンテンツとなるページ
- 各サイト内における評価ページの優先順位
 - 高: 主要デザインの適用ページ
 - 低: PDF コンテンツ、外部サイト

調査対象ページ

※別紙「2024-ice-wcag21-sc-check-2408」Excelファイルを参照ください。

ページNo	画面名	補足（特定箇所のみ実施、特定箇所を除外 など）	URL	備考
01	I.C.E. Interactive Communication Experts	—	https://i-c-e.jp/	—
02	お知らせ I.C.E. Interactive Communication Experts	ページ下部の共通箇所（フッター）は、トップと同等となるため評価から除外。	https://i-c-e.jp/news/	—
03	若手の登竜門を目指し初開催されたクリエイティブアワード『U35 Creative & Communication Award 2023』結果発表 PRESS お知らせ I.C.E. Interactive Communication Experts	ページ下部の共通箇所（フッター）は、トップと同等となるため評価から除外。	https://i-c-e.jp/news/archives/461	—
04	I.C.E.の活動 I.C.E. Interactive Communication Experts	ページ下部の共通箇所（フッター）は、トップと同等となるため評価から除外。	https://i-c-e.jp/activity/	—
05	活動報告 活動内容 I.C.E. Interactive Communication Experts	ページ下部の共通箇所（フッター）は、トップと同等となるため評価から除外。	https://i-c-e.jp/activity/report/	—
06	I.C.E. 人材育成セミナー『みなさん、ちゃんとテストしてますか？』（講師：遠崎寿義氏・伊藤大輝氏／ザ・ストリッパーズ株式会社） 人材育成委員会 活動報告 活動内容 I.C.E. Interactive Communication Experts	ページ下部の共通箇所（フッター）は、トップと同等となるため評価から除外。	https://i-c-e.jp/activity/report/archives/457	—
07	加盟・協賛企業 I.C.E. Interactive Communication Experts	ページ下部の共通箇所（フッター）は、トップと同等となるため評価から除外。	https://i-c-e.jp/companies/	—
08	サポートキット I.C.E. Interactive Communication Experts	ページ下部の共通箇所（フッター）は、トップと同等となるため評価から除外。	https://i-c-e.jp/tool/	—
09	制作ガイドライン サポートキット I.C.E. Interactive Communication Experts	ページ下部の共通箇所（フッター）は、トップと同等となるため評価から除外。	https://i-c-e.jp/tool/production/	—
10	WEB制作（大規模サイト / ECサイト） 制作フローチャート サポートキット I.C.E. Interactive Communication Experts	ページ下部の共通箇所（フッター）は、トップと同等となるため評価から除外。	https://i-c-e.jp/tool/production/web.html	—
11	制作プロセスマネジメント サポートキット I.C.E. Interactive Communication Experts	ページ下部の共通箇所（フッター）は、トップと同等となるため評価から除外。	https://i-c-e.jp/tool/production/process.html	—
12	個人情報保護方針I.C.E. Interactive Communication Experts	ページ下部の共通箇所（フッター）は、トップと同等となるため評価から除外。	https://i-c-e.jp/privacy/	—
13	一般社団法人I.C.E. 組織体制改変のお知らせ TOPIC お知らせ I.C.E. Interactive Communication Experts	ページ下部の共通箇所（フッター）は、トップと同等となるため評価から除外。	https://i-c-e.jp/news/archives/446	お知らせ内のカテゴリ内から任意で抽出
14	【イベント開催のお知らせ】I.C.E. CREATIVE LOUNGE 第11回 ～カンヌライオンズ2024の最新トレンドを読み解く～ PRESS お知らせ I.C.E. Interactive Communication Experts	ページ下部の共通箇所（フッター）は、トップと同等となるため評価から除外。	https://i-c-e.jp/news/archives/466	お知らせ内のカテゴリ内から任意で抽出
15	I.C.E.セミナー ～若手クリエイター必見！隣の芝生は本当に青いのか？～「クリエイティブカンパニーの若手が描くキャリアプランとは？」を開催します PRESS お知らせ I.C.E. Interactive Communication Experts	ページ下部の共通箇所（フッター）は、トップと同等となるため評価から除外。	https://i-c-e.jp/news/archives/453	お知らせ内のカテゴリ内から任意で抽出
16	2024年度 第2回マネジメントサロンを開催しました！	ページ下部の共通箇所（フッター）は、トップと同等となるため評価から除外。	https://i-c-e.jp/activity/report/archives/460	活動報告内のカテゴリ内から任意で抽出
17	I.C.E.セミナー 若手クリエイター必見！隣の芝生は本当に青いのか？『クリエイティブカンパニーの若手が描くキャリアプランとは？』を開催しました！	ページ下部の共通箇所（フッター）は、トップと同等となるため評価から除外。	https://i-c-e.jp/activity/report/archives/455	活動報告内のカテゴリ内から任意で抽出
18	I.C.E. Working Group 32th 外部講師会『弱さを生かすクリエイティビティ』（講師：澤田智洋氏／コピーライター、世界ゆるスポーツ協会代表理事）	ページ下部の共通箇所（フッター）は、トップと同等となるため評価から除外。	https://i-c-e.jp/activity/report/archives/448	活動報告内のカテゴリ内から任意で抽出
19	SOW 作業範囲記述書 サポートキット I.C.E. Interactive Communication Experts	ページ下部の共通箇所（フッター）は、トップと同等となるため評価から除外。	https://i-c-e.jp/tool/production/sow.html	—
20	業務委託契約作成ガイドライン サポートキット I.C.E. Interactive Communication Experts	ページ下部の共通箇所（フッター）は、トップと同等となるため評価から除外。	https://i-c-e.jp/tool/production/guideline.html	—

第二部

実際にチェック結果を見てみましょう。

第二部での参考ツール

Chrome Extension 系

- **axe DevTools**

総合評価ツール

<https://chromewebstore.google.com/detail/axe-devtools-web-accessib/lhdoppoipmngadmndnejejpokejbdd?pli=1>

- **taba11y**

タブフォーカスの順序の可視化ツール

<https://chromewebstore.google.com/detail/taba11y/aocppmckdocdjkphmofnklcjhdidgmga>

- **Accessibility Visualizer**

機械評価後の目視チェックサポートツール

<https://chromewebstore.google.com/detail/accessibility-visualizer/idcacekakoknnpbfcjcdhknkffgfbddnhk?hl=ja>

Bookmarklet

- **text spacing bookmarklet**

「達成基準 1.4.12 テキストの間隔」を満たす状態となるかを判断するためのブックマークレット

<https://codepen.io/stevef/full/YLMqbo>

W3C 関連ドキュメント系

- **WCAG 2.1 解説書**

各ガイドラインや達成基準が、何を要求しているのかを解説した資料。

<https://waic.jp/translations/WCAG21/Understanding/>

- **ARIA Authoring Practices Guide (APG)**

アコーディオンやカルーセル、タブ、モーダルダイアログなど、WAI-ARIA を利用したインタラクティブな UI のデザインパターン紹介サイト。

<https://www.w3.org/WAI/ARIA/apg/>

- **Design & Develop Tutorials**

ページ構造やメニュー、画像などといった主要な要素に、こういったアクセシビリティ上の観点に関連するのか説明しているチュートリアル。

<https://www.w3.org/WAI/tutorials/>

CONCENT

CONFIDENTIAL

【関係外秘】本資料の内容の許可なき
転載・引用・公開はご遠慮ください。